

経営比較分析表（平成30年度決算）

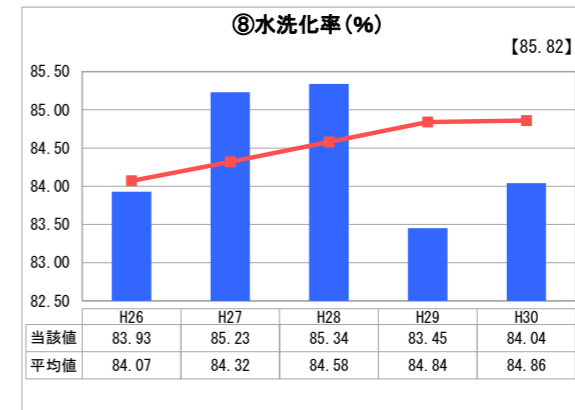
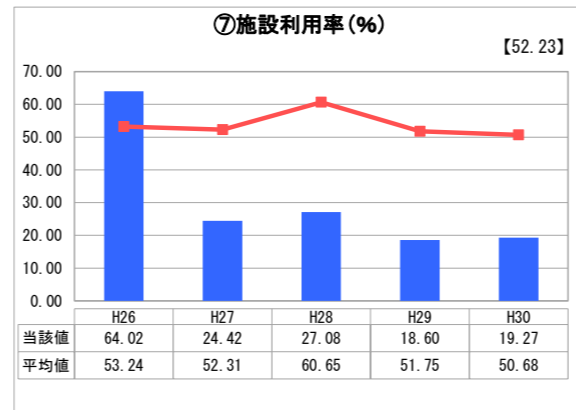
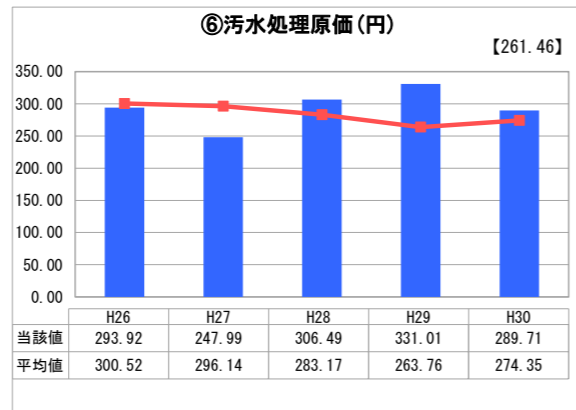
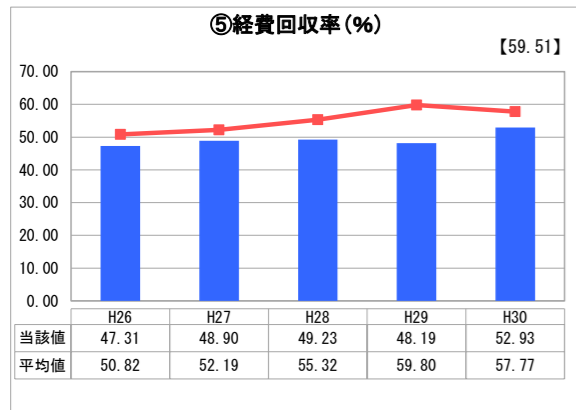
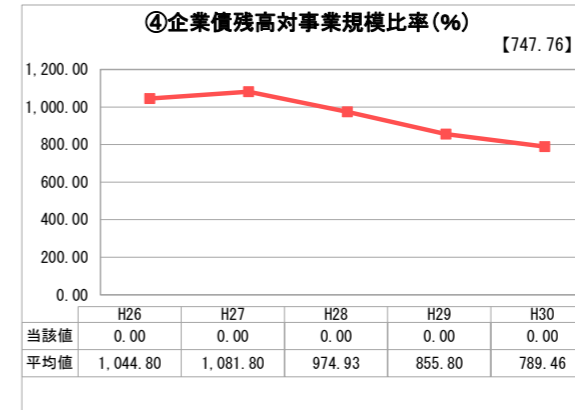
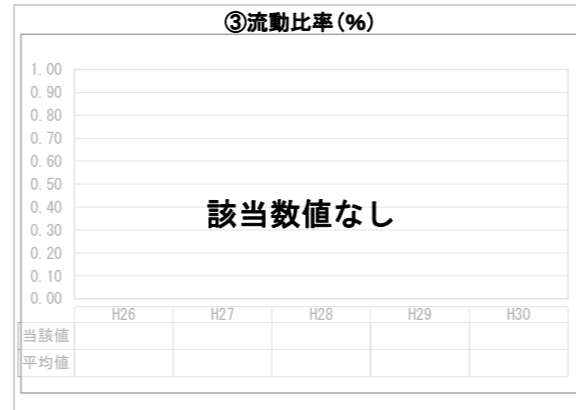
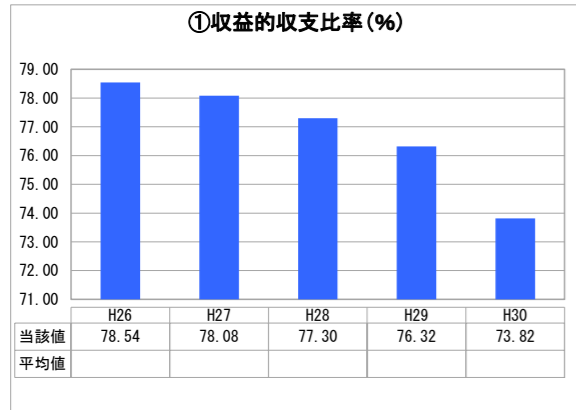
大分県 由布市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	4.06	100.00	3,780

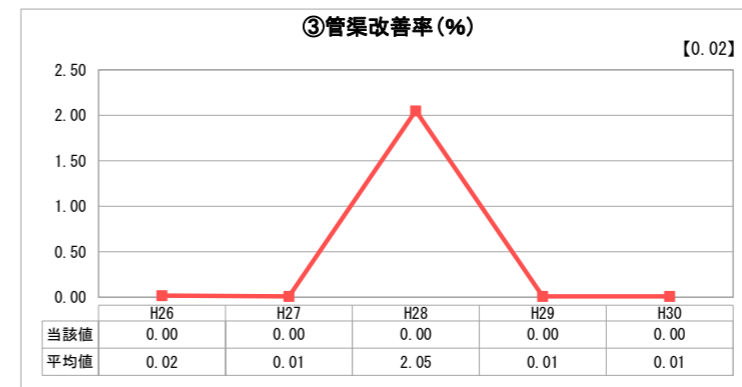
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
34,653	319.32	108.52
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,397	0.55	2,540.00

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
[]	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 『収益的収支比率』・・・経常費用が経常収益でどの程度賄われているかを示す指標。100%を下回り、減少傾向にあることから、使用料収入の向上及び計画的な修繕・整備に注意する必要があります。
- 『企業債残高対事業規模比率』・・・料金収入に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。本事業については、企業債の償還に対しては、全て一般会計の繰入金から充てているため、0%となっております。
- 『経費回収率』・・・使用料で回収すべき経費を、どの程度使用料で賄えているかを表した指標。当該年度は若干上がっていますが、100%を下回っていることから、使用料収入の向上及び計画的な修繕・整備に注意する必要があります。
- 『汚水処理原価』・・・有収水量1m³あたりの汚水処理に要した費用であり、汚水資本費・汚水維持管理費の両方を含めた汚水処理に係るコストを表した指標。前年度に比べ大規模修繕がなかったことから下がっております。
- 『施設利用率』・・・配水能力に対する配水量の割合で、施設の利用状況を判断する指標。平成27年度から著しく減少していることから、隣接処理施設の統合を検討する必要があります。
- 『水洗化率』・・・現在処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表した指標。新たに管渠を整備する予定はありませんが、施設への接続が困難な場合、合併処理浄化槽への転換も求めています。

2. 老朽化の状況について

- 『管渠改善率』・・・当該年度に更新した管渠延長の割合を表す指標。改善が行われておらず、施設の長寿命化に向けた対応が必要となります。

全体総括

汚水処理維持管理費用が増加傾向であり、経営の効率性を低下させていることから、施設の整備や隣接処理施設の統合等、施設の長寿命化に向けた計画が必要であります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。